

人口70億人時代の情報ネット社会を創造するためのフォーラム
「未来を創るソーシャルネット力」
開催概要報告

平成26年3月28日
第9回臨時総会

1. 目的

情報ネットが個人、企業、地域・社会、国家までを巻き込み、世界規模で政治、経済等のあり方にも影響を与えるようになってきており、まさに情報ネット無くしてはあらゆる活動が展開できないところとなっている。このような中で未来を切り拓いていく若者にネット社会とどのように向き合っていくべきか、視座を提供することを目的として有識者によるフォーラムを年1回を目途に実施する。

2. 収録・公開日時

- (1) テーマ : 「未来を創るソーシャルネット力」
- (2) 収録日時 : 平成26年1月28日(月) 14:00~17:00
- (3) 収録場所 : アルカディア市ヶ谷私学会館 (東京都千代田区九段北4-2-25)
- (4) 公開開始 : 平成26年6月上旬

3. テーマの内容

未来を創るソーシャルネット力をテーマとし、個人が持つ情報や知恵がネットを介してつながりあうことで経済や社会を変革する可能性があることの理解と個人の力を社会の発展につなげていくための視点を「未来を創るソーシャルネット力」として以下の視点で紹介し、活用事例、アイデア、将来性などの良い面のみでなく、注意しなければいけない点などについても議論を展開した。

- ① 新しい夢を実現するソーシャルネットの力
- ② 企業によるソーシャルテクノロジーの活用
- ③ 気象情報のソーシャル化
- ④ デジタルテクノロジー × クリエイティブ
- ⑤ パーソナル(ソーシャル)ファブ리케이션

4. フォーラムの進め方

- ① ネットを用いたさまざまな事象について、ネット社会とどう向き合っていくべきか問題提起し、コーディネーターの意見交換や議論を通じて、自己との関連付けができるよう材料を提供する。
- ② フォーラムは編集後インターネットで広く公開し、視聴者間の学習や意見交流、創発的な議論を目指す。
- ③ 司会・進行は、村井委員長が務める。

5. 参加有識者

- (1) 私立大学情報教育協会 情報教育研究委員会 委員長
村井 純 氏 (慶應義塾大学 環境情報学部長)
- (2) 外部有識者
行木 陽子 氏 (日本アイ・ビー・エム株式会社 ソーシャルエアエバンジェリスト)
石橋 知博 氏 (株式会社 ウエザーニューズ 取締役)
猪子 寿之 氏 (チームラボ株式会社 代表取締役社長)
田中 浩也 氏 (慶應義塾大学 准教授 ファブラボジャパン発起人)

6. 開催結果の概要

(1) テーマ別の説明の概要は、以下の通り。

*以下のテーマ別説明と有識者の意見交換については、編集後平成 26 年 6 月にインターネットで配信する。

① 新しい夢を実現するソーシャルネットの力

村井 純 氏 (慶應義塾大学 環境情報学部長)

インターネットで世界中の人が持っている多様な力を集める。事実に基づいたソーシャルネットによる情報が大きな新しい力を形成しつつある。例えば、個々の自動車の運転情報から雨やスリップ等の状況を瞬時に道路情報に反映するビッグデータの活用、個人の発信する情報が災害時に瞬時に情報共有され対策に結びつけられるようになっている。ソーシャルネットにより双方向で世界中の人と繋がることで、新しい創造性、デザイン、感性、アイデアが生まれ、個人の役割や力を発揮する機会が増大している。インターネットを正しく発展させていくことを人類全体がグローバルな視点で考えていかなければいけない。

② 企業によるソーシャルテクノロジーの活用

行木 陽子 氏 (日本アイ・ビー・エム株式会社 ソーシャルウェアエンジニアリスト)

ソーシャルテクノロジーは、誰もがネットワークで自分の意見を言い、その意見をもとに人が繋がり、新しい価値を創造していくことでビジネスを大きく変えている。企業での活用事例として、人的繋がり、個人の考え、匠の技、ノウハウ等、人間の頭の中にある暗黙知を顕在化し、情報共有することで組織に埋もれている情報や人材の発掘、新しい商品開発や事業展開などに効果を上げている。従来不可能であった新しい洞察、新しい人脈、新しい組織づくりを可能にする反面、プライベートな部分の可視化、情報機器を活用する力や発信の得手不得手の差別化を生まないようにすることが重要であり、発信内容の信頼性などの問題を解決していくことが今後の課題である。

③ 気象情報のソーシャル化

石橋 知博 氏 (株式会社 ウェザーニューズ 取締役)

ソーシャルネットを活用して気象情報を提供することでより正確な天気予報を実現していく取り組みとして、会員 500 万人、1 日 10 万人から 25 万人が写真やコメントをレポートする参加型のソーシャルネットとしてのウェザーニュースタッチが紹介された。個人それぞれが直接感じて発信する情報はきめ細かく、現在の気象予測の仕組みでも補えない地域の情報がより正確な天気予報を可能にしている。例えば、竜巻のように短時間で通り過ぎるため観測が難しい情報もリアルタイムで情報が提供されることで正確な天気情報が提供できている。ウェザーニュースタッチの参加者が自分で感じた気象情報をネットで提供し、皆で共有することで公的に助け合う自助共助の意識を高める新しいソーシャルネットの威力が期待がされる。

④ デジタルテクノロジー ^{カケル} × クリエイティブ

猪子 寿之 氏 (チームラボ株式会社 代表取締役社長)

サイエンス、テクノロジー、デザイン、アートを融合させた領域でのコンテンツづくりの事例として、等身大のホログラム (レーザ光線によって作られる 3 次元立体写真) で構成されるバーチャル空間の中で、参加者がホログラムとインタラクション (相互的な影響を受けた動き) する映像アート作成などの事例が紹介された。多くの産業は、生み出す製品やサービスがアートのだと感じるようなものでないと生き残れない社会になっていく。情報革命の中で勝者になるには、クリエーテ

イビティ（創造性）こそが最も価値あるものであり、世界中の人とインタラクティブな相互作用が行われ、新しい調和や秩序が創られ、発展していくことが望まれる。

⑤ パーソナル（ソーシャル）ファブリケーション

田中 浩也 氏（慶應義塾大学 准教授 ファブラボジャパン発起人）

世界 50 か国 250 拠点で小学生から高齢者までの全く異なるバックグラウンドの人々が、自発的に草の根のネットワークを立ち上げて自分の要求を形にしたい、想像力を「モノ」に表現したいという思いで集まり、活動している実験工房ファブラボが紹介された。一緒にモノ作りを行う中で知識やスキルを教え合い、一人ひとりの創作・発明を支援するコミュニケーション活動をインターネット上でグローバルに展開することで、世界中とアイデアやスキルを提供し合い、地域の問題解決に向けたモノづくりや新しい産業の創出などが行われている。

⑥ まとめ（村井委員長、参加者全員）

若者には自分の考える未来に確信を持って取り組み、新しい価値の創造に挑戦して欲しいことを各有識者から以下のように語りかけていただいた。

- ・ 自分の身の回りをもっと良くしよう、創造しようということを突き詰めて考えて行って欲しい。自分の身の回りにあることを改善することはビジネスにも繋がるので未来に向けて取り組んで欲しい。
- ・ デジタルとリアルの世界をきちんと融合させ、実際に自分が作っていることを良く見据えながらデジタルを使っていくことが大事で好奇心を持って取り組んで欲しい。
- ・ 一人一人が自信を持って好きなことに取り組むことが重要である。そうすれば未来が明るくなり良い世界になると思う。
- ・ 自分が好きなことを自分で感じながら自分でしっかり考えて行動していくことが大事、しっかり考えて頑張る欲しい。
- ・ 他の人の評価よりも自分の心の中で何かわくわくするという感情を信じて欲しい。すごいなど感じることを突き詰めて行って欲しい。